

「いわき市震災メモリアル事業」の概要について

1 市復興ビジョンにおける位置づけ

◆ 取組の柱2 『生活環境の整備・充実』

「災害の教訓、記録等を収集・整理し、正しく後世に継承するとともに、減災教育に活かします。」

2 「震災の記憶・記録の継承」に係る基本的な考え方

目的 「震災の記憶や教訓を風化させず、確実に後世に伝えていく。」

視点 ①追悼・鎮魂 ②危機意識や防災意識の醸成 ③震災の記録の保存と継承

方向性 市内各地区の被災構造物等とともに、ハード(拠点施設整備)及びソフトの各施策を一体的に展開し、市全体としてのネットワーク化を図る。

3 これまでの取組み経過

(1) 「市復興事業計画」に基づく取組み

ア 東日本大震災の記録・復興の歩みの作成(ふるさと発信課)

「震災記録誌(概要版・詳細版)」及びDVDを制作し、各戸配布や市公式ホームページへ掲載。

イ メモリアル公園の整備検討(公園緑地課)

震災の記憶を未来に語り継ぎ、今回の震災で亡くなられた方々への鎮魂の思いを形にしたメモリアル公園を整備するため、現在、基本構想を取りまとめ中。

ウ モニュメント等の整備に対する支援(市民協働課)

今回の震災で亡くなられた方々への鎮魂の思いを形にしたモニュメントを整備に対して経費の一部を支援。
※モニュメントの整備実績(1件:H27. 2 中之作)

(2) 震災遺構に関する検討

以下の4件について、保存及び活用を検討したところであり、現状については記載のとおり。

ア 稲荷神社(久之浜)

津波被害を免れた地区内の神社。地域のつながりや震災の記憶を残す象徴として、地区の方々から現在の位置での存続を求める意向が示され、隣接する防災緑地と一体的にメモリアルゾーンを形成する予定。

イ 旧豊間中学校(平豊間)

旧豊間中学校校舎の保存・活用に向けて地元協議を行ったが、地区の同意が得られず、本年5月から解体に着手。

なお、校舎内の黒板等、複数の被災備品については、今後の利活用を見据え、当面の間、保管することとしている。

また、津波被災地の遺留品についても、現在、公共施設において保管中。

ウ 防潮堤の一部(岩間)

地区のNPO団体等から、決壊した防潮堤の一部を防災緑地内にモニュメントとして設置保存したいとの意向が示され、防災緑地工事の施工者である県(いわき建設事務所)と協議中。

エ 4月11日の大規模余震によって生じた断層(田人)

田人地域振興協議会が、断層が現れた位置を示すため、石碑の設置とイチヨウの植樹を平成25年から毎年4月11日の地震発生日に行っている。また、同協議会より、平成25年7月に、市指定文化財の申請が市教育委員会へなされている。

(3) 市内各地区における主な取組み等について

市内各地区においては、次のような関連する取組みも進められている。

ア 久之浜支所・公民館(久之浜)

津波避難ビル機能を有する防災拠点として整備中の施設内において、久之浜・大久地区住民が主体となって運営する、防災まちづくり資料館の整備を検討中。

イ 道の駅よつくら港(四倉)

平成24年8月に新交流館が再オープン。施設を管理運営する「NPO法人よつくらぶ」において、津波により被災し、建物付近まで流された漁船を、そのままの姿で保存・利活用を検討中。

ウ ライブいわきミュウじあむ(小名浜)

平成25年2月から『いわきの東日本大震災展』と題し、震災時の写真パネルをはじめとする各種震災記録等の展示及び情報発信を行っている。

※「復興・防災プログラム提供事業」による市内各被災地スタディツアー

震災語り部を養成するとともに、震災の概要、被災者の生の声、被災地視察をセットとした「復興・防災プログラム」を構築し、研修旅行・教育旅行等のメニューとして提供し、いわきのリアルな姿を発信している。

市内各地区における 主な取組み等について



①久之浜地区(1)

稲荷神社周辺での取組み

①久之浜地区(2)

支所での展開

①久之浜地区(3)

浜風商店街での取組み

※市内各被災地(1)
(スタディツアー)

市内全域での展開

※市内各被災地(2)

遺留品の保存の取組み

②四倉地区(1)

道の駅周辺での展開

②四倉地区(2)

チャイルドハウスふくまるでの展開

③いわき明星大学
復興事業センター
震災アーカイブ室

震災資料の収集・展示

④平豊間地区(1)

とよマルシェでの取組み

④平豊間地区(2)

旧豊間中学校被災備品保存・3D映像保存の取組み

⑦田人地区

4.11断層周辺での取組み

⑥岩間地区

防潮堤モニュメント設置周辺での取組み

⑤小名浜地区(1)

市民団体・NPOの取組み(モニュメント設置・古民家活用)

⑤小名浜地区(2)

ら・ら・ミュウでの展開

4 平成27年度の取組み

「いわき市震災メモリアル検討会議」の設置

学識経験者等で構成する「検討会議」において、専門的・技術的見地、市民目線での本市にふさわしい震災メモリアル事業の方向性等について、検討及び調査を行う。

検討事項①

「基本的な考え方」に基づく具体的な手法等の検討

- 【主な協議事項】
- 事業目的を達成するための本市にふさわしい手法等

検討事項②

拠点施設のあり方や整備の方向性

- 【主な協議事項】
- コンセプト
 - 施設の機能
 - 運営方法 等

【調査業務委託】

- ※会議と並行して調査を進める。
- 既存施設や候補地の状況
 - 施設整備費・維持管理費 等

検討事項③

拠点施設と既存資源との連携方策などソフト事業の展開の方向性

- 【主な協議事項】
- 拠点施設と市内の被災建造物等との連携手法、ネットワーク化
(稲荷神社[久之浜]、ら・ら・ミュウ[小名浜]、防潮堤モニュメント[岩間]、4.11の余震による断層[田人] 等)

市震災メモリアル事業 基本構想について提言

「いわき市震災メモリアル事業 基本構想」の策定

◆「震災メモリアル事業 基本構想」に基づく取組みや事業展開

(参考) 国県等の主な動向

区分	取組み	主な内容	開始時期等	備考
国	国立国会図書館「NDL東日本大震災アーカイブ ひなぎく」	東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を一元的に検索できるポータルサイトを運営。	平成25年3月	
	震災遺構の保存に対する支援	震災遺構の保存に係る費用について、復興交付金による支援対象に追加。	平成25年11月(公表)	
	「国営追悼・祈念施設(仮称)」の設置	地方公共団体との連携の下、岩手、宮城、福島各県に1か所ずつ、国営の復興祈念施設を新たに整備することについて閣議決定。	平成26年10月(閣議決定)	・岩手県陸前高田市 ・宮城県石巻市
	市町村による追悼・祈念施設の整備に対する支援	市町村による地域住民のための追悼・祈念施設の整備に関し、復興交付金による支援対象に追加。	平成26年11月(公表)	
県	ふくしま震災遺産 保全プロジェクト	県内8団体が連携し発足。次世代に伝え遺すべき震災資料等の保全を図ることを目的に、フィールド調査や各種資料収集、講演会及び震災資料の展示公開を県内各地で実施。	平成26年4月(発足)	事務局： 福島県立博物館
	原災アーカイブ拠点の検討(国への要望)	震災記録や資料の収集・保存、調査・研究、情報発信・展示、教育・交流・人材育成を行う拠点(建築物)について、国による整備を要望。	平成26年10月(公表)	
	復興祈念公園の候補地選定	双葉、浪江両町にまたがる沿岸部の中野・両竹地区を候補地として選定。平成32年の一部開所を目指す。	平成27年4月(公表)	
県内他市町	[相馬市] 伝承鎮魂祈念館 建設	震災前の風景を後世に伝え、来訪者の交流の場とすることを目的に建設。震災前の風景や地域の催しの写真の展示や震災当日の映像記録などが展示されている。	平成27年4月(オープン)	
	[富岡町] 震災資料館整備検討(仮称)	津波被害にあった被災パトカーや富岡駅の改札など、町が収集した資料及び被災前の町の歴史資料の展示公開をはじめ、被災建物の3D映像放映を検討。	平成27年4月(報道)	常磐線が平成30年3月までに再開通するのを見据え、JR富岡駅前を候補地としている。

【県復興祈念公園 候補エリア】



【県内他市町 施設位置】



①相馬市伝承鎮魂祈念館



②富岡町震災資料館(仮称)



■いわき市震災メモリアル検討会議スケジュール(案)

※設定：検討会は全5回、先進事例の視察を挟み約3週間おきに開催。

平成27年度	6月			7月			8月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
基幹工程	●6/2 第1回検討会議		● 先進地視察		● 第2回検討会議		● 第3回検討会議		● 第4回検討会議
検討テーマ	ステップ1 資源調査			ステップ2 仮説の検証					
内容	いわき市震災メモリアル事業の概要説明・スケジュールの確認		類似参考施設の視察		事業コンセプトの検討		中核拠点施設の検討		事業運営と事業スケジュールの検討
	<ul style="list-style-type: none"> 市の現状と経過 国県や他自治体の取組み状況 検討会検討内容 事業スケジュール 先進地視察先及び日時 		2案で想定 ・関西方面 -2～3館 ・上信越方面 -3～5館		<ul style="list-style-type: none"> 視察報告とまとめ 事業コンセプト(意義、目的、テーマ、拡がりと発展性等) 事業連携(ネットワーク)のあり方と連携先 市内各被災地区ゲストスピーカー(4名)からのヒアリング※1名当たり質疑含め15分程度 等		<ul style="list-style-type: none"> 施設の必要性 施設機能、諸室構成の検討(ゾーニング、イメージ) 施設規模の検討 展示手法例 候補地と整備方法の検討 等		<ul style="list-style-type: none"> 事業運営(方針、ハード及びソフト事業内容、組織形態) 震災伝承者(語り部)等との連携 事業&整備スケジュール 等

平成27年度	9月			10月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
基幹工程			● 第5回検討会議	市長へ報告		
検討テーマ	ステップ3 事業の検討			■パブリックコメント 実施 ■基本構想 策定		
内容			提言書案の検討、まとめ ・既検討内容のまとめ ・今後の検討課題 <提言書の構成> ・事業コンセプト ・事業計画(方針、内容、体制、活動計画) ・拠点施設の機能と整備方針 ・市民や組織との連携手法 ・整備費用の設定			